

「兄弟たち、カナンに戻る」

2021年06月25日

父のヤコブは息子たちに言った。「お前たちは、私から子どもを奪ってしまった。ヨセフがいなくなり、シメオンがいなくなった。そして今度はベニヤミンを私から取り上げようとする。すべて私にばかり降りかかる。」(創世記 42 章 36 節) しかし、ヤコブは言った。「いや、この子をお前たちと一緒に下って行かせるわけにはいかない。この子の兄は死んで、この子だけが残されている。旅の途中で、この子が危険な目に遭いでもしたら、お前たちは、白髪この私を、悲嘆のうちに陰府へと下らせることになるのだ。」(創世記 42 章 38 節)

ヨセフは、兄弟の一人を人質にして、他の者は穀物を持って帰ってよい、ただし、お前たちが回し者でないことを証明するために末の弟を必ず連れて来いと厳命した。兄弟たちはヨセフの命令を聞き、「ああ、私たちは弟のことで罰を受けているのだ。弟が私たちに助けを求めたとき、その痛みを見ながら、聞こうとしなかった。それで、こうした苦しみ降りかかったのだ」と、ヨセフを売ったことを悔やんだ。長男ルベンは、「あのとき私は『あの子に害を加えるな』と言ったではないか。しかしあなたがたは耳を貸そうとしなかった。だから、あの子の血の報いを受けているのだ」と言った。ヨセフは、兄弟たちが自分を売ったことの報いとして、今の苦難を受けていると悔やむ会話を聞いて、彼らから遠ざかり、一人で泣いた。彼らが後悔していることを知って、涙したのである。ヨセフは、次男のシメオンを捕らえて、縛り、人質にした。そして、袋に穀物を入れ、代金を持って来た銀も袋の中に返し、道中の食料も与え、カナンに帰した。

帰りの途中、ろばに飼葉を与えようと袋を開けてみると、代金の銀が入っていた。彼らは、「銀が返されている。しかも私の袋の中に。神は一体私たちに何ということをしたのだろう」と、互いに身を震わせ、恐れおののいた。兄弟たちは、カナンの父ヤコブの下に帰って来て、自分たちの身に起こったことを報告した。末の弟ベニヤミンを連れて来れば、シメオンを返し、お前たちが正直な人間であることが分かり、この地で自由に行き来できるようにしてやろうと言われた。更に、帰途、袋の中に代金の銀の包みが入っていたことも話した。ヤコブは息子たちの報告を聞き、銀の包みが返されていることに恐怖を覚えた。代金を取らずに、穀物を与えることなど、あり得ないからである。そしてヤコブは息子たちに、「お前たちは、私から子どもを奪ってしまった。ヨセフがいなくなり、シメオンがいなくなった。そして今度はベニヤミンを私から取り上げようとする。すべて私にばかり降りかかる」と嘆いた。シメオンを取り返すためには、ベニヤミンをエジプトに行かせなければならない。三人の子どもを失うとことを恐れた。

父の嘆きを聞き、長男ルベンが父に、「もし、お父さんのところにベニヤミンを連れて帰らないようなことがあれば、私の二人の子どもを殺してもらってもかまいません。私に任せてください。私がお父さんのところに連れて帰ります」と、子どもたちの命にかけて、ベニヤミンを連れ帰ると言った。しかしヤコブは、「いや、この子をお前たちと一緒に下って行かせるわけにはいかない。この子の兄は死んで、この子だけが残されている。旅の途中で、この子が危険な目に遭いでもしたら、お前たちは、白髪この私を、悲嘆のうちに陰府へと下らせることになるのだ」と言い張った。ヤコブにとって、ヨセフの亡き後、ベニヤミンは特別に愛した子どもで、エジプトには行かせない決意であった。